

《パネルディスカッション IV》

一般病院における核医学

司会の言葉

今 枝 孟 義 (名古屋第一赤十字病院放射線科)

村 田 啓 (放射線医学総合研究所重粒子治療センター)

本パネルの目的は、臨床の第一線病院で、核医学診療がいかに広く普及し、しかも有用に利用されているかを調べると共に、内蔵せる問題点を浮き彫りにすることにあります。

しかし、いざこのテーマに取り組んでみますと、あまりにも漠然としたテーマであり、具体化するのに大変困惑いたしました。パネリストの先生方も大変苦労されて纏められたことと存じます。

本パネルでは、以下の項目を選び、検討していただくことにいたしました。

まず、現況を把握するために全国的な実態調査 (*in vivo* に限定して、アイソトープ協会の集計資料か、核医学会認定医の教育病院申請書類などを参考にして) を行い、一般病院と大学・研究機関附属病院を比較検討していただき、さらに、個々における比較例として、最近、一般病院から大学へ、またはその逆に異動された先生に一般病院と大

学・研究機関附属病院の比較検討をしていただきます。

次に、ごくありふれた病院を対象として一般病院の悩みを、その逆に、専門病院においていかに核医学診療が有効に利用されているかを述べていただきます。さらに、核医学検査を受診される患者さんから聞き取り調査を行い、核医学検査に対する意識調査について報告していただくことにしています。

これらの検討によって、今日のわが国における核医学診療の実態を把握することができるのではないかと考えております。

なお、詳しい検討内容については、各パネリストの先生方の抄録をご参照していただきたく存じます。

学会当日は、多数の方のご参集と活発な討議をお願いいたします。